

事業所名		檀原スコーレの杜 大和八木ステーション				支援プログラム（参考様式）		作成日		2025 年		3 月		21 日	
法人（事業所）理念		今日の一步が未来をひらくチカラになる													
支援方針		登校状況に関わらず、子どもたちが安心して過ごせる環境を整え、子ども自身の気持ちを大切にする。													
営業時間		9 時		0 分から		18 時		0 分まで		送迎実施の有無		あり なし			
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	・健康状態の維持・改善に向けて、生活リズム・生活習慣の「見える化」を支援（例：記録表、カード形式）。 ・感覚過敏や生活困難に応じたライフスキルの獲得とマネジメントスキルの育成。													
	運動・感覚	・姿勢や運動・動作に関わる基本技能に加えて、協調運動・粗大運動・微細運動を組み合わせた感覚統合的アプローチ。 ・「感覚の活用特性」への理解を深める個別対応も行い、過敏や鈍麻への支援計画に反映。													
	認知・行動	・発達特性に合わせて、認知特性理解をもとにした個別学習支援・タスク管理支援。 ・行動観察から適切な声かけ・動機づけの方法を選び、問題行動の予防と望ましい行動の定着を図る。 ・SST（ソーシャルスキルトレーニング）を自然場面で取り入れる工夫あり。													
	言語コミュニケーション	・言語面・非言語面双方にアプローチし、「言いたい」「伝えたい」意欲を引き出す活動（例：選択式コミュニケーション、視覚支援の導入）。 ・聴く・待つ・共感するスタッフの対応により、対話力を安心して伸ばせる関係性を大切にしている													
	人間関係社会性	・他者との関係構築や自己認識の支援を行い、「チーム活動」や「共同課題」を通じて協働の経験を積む。 ・自己理解と行動の調整を促しながら、集団内での役割意識や安心感を育む。 ・「感情コントロール」や「やりとりの順番」「謝る・お願いする」など、実社会で活かせる力を日常から育てる。													
家族支援		・アタッチメント（愛着）支援の視点から、家庭とのやりとりにおいて「安心できるかわり」を支援。 ・保護者の困り感や悩みに対し、個別相談・定期面談・保護者セミナーなどを通して支援。						移行支援		・不登校児童生徒の「社会とのつながり直し」を重視し、安心できる関係と居場所の提供を最優先とする。 ・学校復帰だけを目標とせず「学び続ける力」「自分で選ぶ力」の育成。 ・必要に応じて在籍校・支援機関と連携し、復学や進学、進路に向けたサポートを個別に調整。					
地域支援・地域連携		・地域イベントへの参加や、ボランティア・体験活動の機会提供 ・関係機関との「顔の見える関係性」づくりを大切にし、地域に根差した支援拠点を目指す						職員の質の向上		・外部研修・事例検討・OJTによるスタッフのスキルアップ支援体制。 ・スタッフ同士の定期的な振り返りや情報共有により、チーム支援の一貫性と質の維持を図る。					
主な行事等		・年間を通じて、夏祭り・ハロウィン・クリスマス・季節の創作活動・外出行事などを企画。 ・行事は「楽しい」だけでなく、社会性・役割・計画性を育てる学習の場としても設計。 ・子ども主体で計画・準備を進める行事（お店屋さんごっこ、イベント発表など）も今後導入予定。													